

なぜ、このサービスを始めるのか？

クッキーメール株式会社 社長
兼 ビーテック株式会社 社長
石原康次

2011年3月に起きた、東日本大震災。それがこの企画の始まりでした。当時、ビーテック株式会社の本社工場も津波で一部浸水しました。計画停電も続いたため、菓子の製造もままならず、工場機能も半ば麻痺状態となり、停電で真っ暗の工場の中、ひとり悩み続けました。

今、いったい何ができるのか。東北の被災した方々に何ができるのか。

そして生まれたのが「希望のマシュマロ」です（次項、写真掲載）。停電の隙間をぬって、3日間作り続けました。チョコの入ったマシュマロの表面に、食用色素で文字を描き、それを東北の避難所へ送りました。その後、お礼の手紙を多くの方からいただきました。家族を亡くした中学生から、「夢をあきらめないで、と描かれたマシュマロを見て、もう一度頑張る気持ちになりました」と書かれた手紙を受け取った時、クッキーメールの種が、私の心の中に芽生えました。

人の想いをお菓子で届ける…。 それ以来、それが我が社の使命となりました。

ありがとう… おめでとう… はじめまして… ごめんなさい…

おつかれさま… おせわになります… よろしくおねがいします……。

この国では昔から、お菓子を添えて人の想いを届けてきました。つまらないものですが…と言いつつお菓子を差し出す光景は、今もこの国の美しい文化のひとつです。言葉では伝えきれない想いをお菓子に託して…。

インターネットや移動通信が発達するにつれ、人の言葉は軽々と海を越えるが、

なぜか人と人の距離は遠くなるばかり…。

離れた他人のつぶやきさえ聞けるのに、すぐそばにいる人の心の声さえも聞こえなくなってしまった…。

言葉は溢れるが、想いは喧噪に紛れて流されていく…。

今の時代を生きる言葉の矛盾…。

そんな時代に、言葉の1文字1文字を噛みしめてもらえるような手紙を提供したいのです。

クッキー1粒にたった1つの文字。文字数の制限もあります。使える文字にも限りがあります。

けれどだからこそ、1つ1つの文字に想いをこめて手紙を書けるのではないのでしょうか。想いが伝わるのではないのでしょうか。

照れくさくて言えなかった言葉も、口下手でうまく伝えられなかった感謝の気持ちも、

ずっと心に秘めた熱い想いも、クッキーの手紙にして届けて欲しい。

クッキーメールはこの国の新しい手紙のカタチです。

技術が新しいわけではありません。言葉の1文字1文字に想いをこめる、心の届け方の新しいカタチです。

どうぞ、ご期待ください。

参考写真 「希望のマシュマロ」 2011年3月

